

みよし machi JAM とは？



「ジャム」とは、「ジャムセッション」の略語で、くつろいだ気分で自由に行う即興演奏またはその集まりのことをいいます。そこから、三芳町の未来をテーマに、「気心知れた仲間が集まり、のんびり気楽に町への声を町長へ語る場所」をコンセプトとして、みよし machi JAM はつくられました。少人数だからこそ話せる町長への率直な意見やアイデア。町のこれからを「みんな」で考え、「みんな」で取り組んでいこうとする人たちの参加をお待ちしています。

プレJAMで出た意見を紹介

- ・町外の人に自分たちの気付いていない魅力を聞ける場があるとよい。
- ・体験落ち葉掃きなど、イベントに人が来る環境が必要。例えば、駐車場や自転車道路の設置、歩道整備等。
- ・さつまいもの成功事例を参考に、他の産物の販売や製作ができるとよい。
- ・町制50周年に向けて、町で色々な形のフェスができるとよい。



三富落ち葉野菜研究グループ
早川 徹さん



①町の未来に向けて、熱く想いを語る島田喜昭さん。②みんなが楽しめるイベントを提案する早川光男さん。③縁側で会話をしている様子。気楽に話せる所なら、場所を問わずに開催できます。

来年の町制50周年記念イベント等で発表を予定。そこで新たな50年のスタートが切られます。

仲間同士で気楽に話せる

「みよし machi JAM」の本格開催に先立ち、6月にプレJAMを行いました。協力してくれたのは「三富落ち葉野菜研究グループ」の皆さん。

くつろいだ気分で話せるように、「みよし machi JAM」は開催場所を選びません。会場となった家の主人、早川徹さんは「仲間同士で気楽に町長と話が出来るようになった。今後、他の団

体からも同じような意見が出てくれば、町のめざす方向性が見えてくるのではないかと町の未来に期待を寄せます。

まちづくりの可能性は無限大

「みよし machi JAM」は、住民の皆さんと進める協働のまちづくりがさらなる進化を遂げるための新たなチャレンジでもあります。

住民の皆さんと一緒につくるまちは、無限の可能性を秘めているのではないのでしょうか。

—— 特集・終 ——

今年、協働のまちづくりをさらに発展させるために「みよし machi JAM」をスタートします。これは、団体・サークルの皆さんの集まる所に直接町長が伺って意見を聴き、町の未来のビジョンを住民の皆さんと一緒に考えていこうとする新規事業です。年齢や役職は問わず、団体・サークルの中で参加者が集まれば開催できます。

住民の皆さんとの対話によりいただいた意見は可視化し磨き上げ、政策提言としてまとめて

芳町は来年町政50周年を迎えます。その先のまちづくりのビジョンを考えるためには、住民の皆さんのたくさんの意見やアイデアが不可欠です。

町では「協働のまちづくりネットワーク」をはじめとする500以上の団体やサークルの活動が、魅力あるまちづくりを支えています。その中で、「町をこうしたらよいのに……」という声を町に伝える機会がなかったという人は、少なからずいるのではないのでしょうか。



「プレJAM」でお伺いした「三富落ち葉野菜研究グループ」の皆さん。三富の歴史と農法を伝え継ぐため結成され、20年以上経った今も三芳町の未来のことを考え、日々意見を交わしています。

みよし machi JAM の参加方法

- 1 参加者あつめ**
サークル・団体に参加者を4～5人程度集める。
- 2 役場へ電話し、日程調整**
日程調整のため、役場政策推進室 ☎ 258-0019 (内線422) へ連絡。
- 3 会場手配**
自宅や商業施設でもOK。町施設を希望なら相談。
- 4 開催**
町長が会場に伺い、1時間程度お話しします。
- 5 意見を可視化し、磨き上げて発表**
意見を可視化し磨き上げ、提言をまとめて発表。



はじまる。新しい協働のカタチ。

今年スタートする「みよし machi JAM」。団体やサークルの皆さんが集まる所に町長が伺って意見を聴き、町の未来を描くビジョンを住民と一緒に考えようという新規事業です。

☎ 政策推進室 (内線 422)

